

歯周病検診を受けていない 皆さんへお知らせ

5年に
一度!?



～歯周病検診を受けないと人生の明暗を分ける
ことになるかもしれません～

令和6年度中に満40歳以上で5歳刻みの年齢に達する組合員の皆さんへ、今年5月に約5,000円相当の歯周病検診を無料で受けられる受診券を配付しています。

歯周病は、日本人の歯を失う原因第1位であり、重症化すると歯が抜け落ち、二度と元には戻りません。さらに、歯みがきをしないと歯周病菌や炎症物質が歯ぐきの血管から血流によって全身をまわり、脳卒中や心臓病等の病気を引き起こしてしまいます。歯周病の早期発見は、歯の喪失を防ぎ、全身の健康維持に役立ちます。

受診期限が令和7年3月31日までとなっていますので、該当された方は5年に一度となる絶好のチャンスを逃すことなく確実に受診しましょう！

対象者 ● 令和6年度中に満40歳以上で5歳刻みの年齢に達する組合員

※任意継続組合員を除きます。

受診期限 ● 令和7年3月31日(月)

自己負担額 ● 無料（全額当組合が負担します。）

検診内容 ● 歯周組織の検査、問診、指導

その他 ● 検診結果に基づく歯の治療を行う場合は、保険診療となります。

歯周病検診に
ついてはこちら



（歯周病によりリスクが上がるさまざまな全身の病気）

歯周病の怖さは、歯を失うだけでなく、体のさまざまな病気に影響すると考えられていることです。

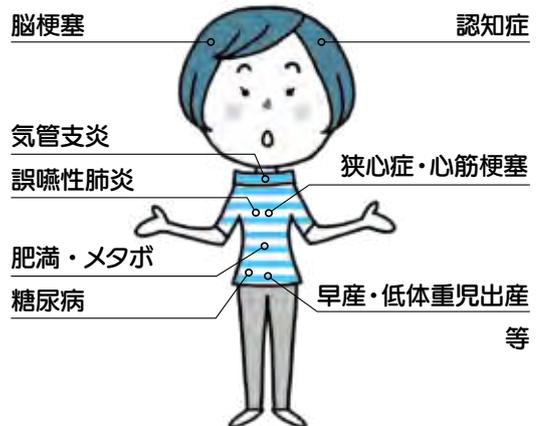
歯周病が進行すると、歯周組織が破壊されて出血し、歯周病菌が血管に入ります。この歯周病菌が血管に取りついて血栓を形成することで血管が狭くなり、動脈硬化を起こして脳梗塞や心筋梗塞、狭心症などの発症リスクが上がります。唾液に含まれる歯周病菌が気管支や肺に入ることによって、気管支炎や誤嚥性肺炎を引き起こすこともあります。

また、歯周病により炎症が起こった歯周組織では、炎症性反応物質が過剰に生み出されます。この物質の中には血糖値を下げるインスリンの働きを弱めるものがあることから、歯周病と糖尿病には深い関連性があるとされています。炎症性反応物質は、子宮の収縮を早め、早産や低体重児出産のリスクを高めるともいわれます。

さらに、歯周病は肥満やメタボリックシンドローム、認知症との関連も示唆されています。

こうしたことから、歯周病の予防・治療は、さまざまな病気のリスクを下げるのがわかります。毎日の歯磨き・口腔ケアを見直し、全身の健康維持につなげましょう。

歯周病と関連がある病気



お問い合わせ先

医療健康課（健康増進係） TEL 029-301-1413